

# 都市と農村における墓地に関する研究

摂南大学大学院工学研究科 笹 泰之  
摂南大学理工学部 教授 田中 直人

## 1. 研究背景・目的

我が国において、近年まで死亡数に比べ出生数が多い傾向にあった。しかし、少子高齢化の進展に伴い、2005年に初めて、死亡数（約108万4千人）が出生数（約106万3千人）を超え、今後、2040年に出生数は約58万2千人と減少傾向であるのに対し、死亡数は約166万3千人と増加する傾向にあると予測されている。

日本は、高度経済成長期以降、都市への人口移動により都市の人口が増加するのに対し、農村などの地方では、人口が減少し、過疎化が進んでいる。その結果、農村では、墓の跡継ぎ世帯の流出や、高齢者の割合の増加、一人暮らしの高齢者の増加が見られ、それにより、親族・遺族の意識が薄れ、家系による、お墓の維持が困難となり管理者もいない無縁墓地の増加が見られている。都市では、農村などの地方から都市に移り住んできた世代同士が結婚し、核家族化が起こり、地方に戻らないことから親族間においての関係が希薄化しており、そのことが墓の後継ぎ問題にも影響しているとされている。また、新しく墓を建てるに至っても、人口集中により土地不足で墓地を建てることのできないといった問題に発展し、都市における墓地の在り方や空間の在り方が重要視されている。さらに、それだけではなく、そもそもの都市における墓に対する意識の問題にまで発展してくるとされており、それは、農村の無縁墓地の対策といった問題についても同様である。

そこで本研究では、墓地・墓に対する住民の意識さらに年齢別の意識を明らかにし、今後の都市や農村における墓地の在り方についての基礎的知見を得ることを目的とする。

## 2. 調査概要

調査概要を以下に示す（表1）。

表1 調査概要

調査日時	2010年10月～12月下旬
対象者	①愛媛県西予市の住民 ②大阪府寝屋川市の住民
調査方法	配布（ポスティング）、回収（郵送）
配布部数	①250部 ②350部
回収率	①67.2% ②37.1%
調査項目	・回答者の属性 ・墓地までの距離 ・墓地の利用実態 ・墓地に重視するもの ・墓に重視するもの ・墓地施設に対する要求度

## 3. 調査対象地の概要

### 3.1 愛媛県西予市の概要

愛媛県の南部に位置する海と山々に囲まれ、山林が75%を占める自然に恵まれ、また、歴史的建造物や文化遺産、民俗芸能や伝統行事が保存・継承されている（図1）。

### 3.2 大阪府寝屋川市の概要

大阪府の東北部、淀川左岸に位置し、大阪市域の中心から15kmの距離にある。大型商業施設などは、寝屋川市駅前、香里園駅前や国道沿いに集中立地している。人口は、20万人を超え、特例市に指定されている（図2）。

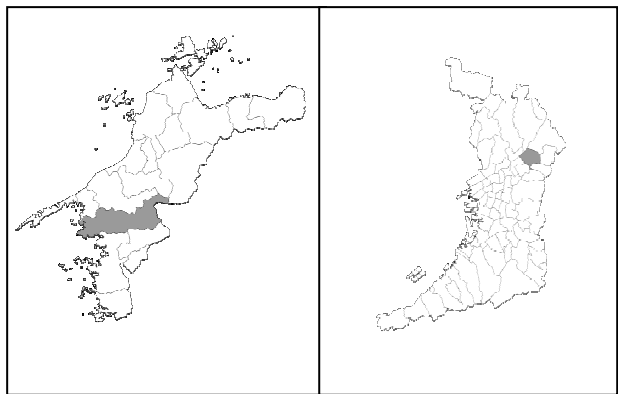


図1 愛媛県西予市

図2 大阪府寝屋川市

### 3.3 対象地の比較

対象地の比較を行った（表2）。人口と世帯数は、寝屋川市が西予市の約5倍となっているが、高齢化率については、西予市が寝屋川市に比べ高くなっている。墓地数においては、西予市の寺院、民間、個人墓地の数が定まっていなかったため比較することはできないが、市営の墓地の数が西予市においては少ないことが判明した。また、墓地数が不明なことから $+α$ とする。面積においては、西予市は寝屋川市の20倍の土地の広さを持ち、平坦な都市と海や山に囲まれた高低差のある農村である。

表2 対象地の概要

	西予市	寝屋川市
人口	43,165人	242,579人
世帯数	18,606世帯	106,653世帯
高齢化率	36.10%	22.20%
墓地数	218 + $α$	5,733
面積	514.79km <sup>2</sup>	24.73km <sup>2</sup>
市の最低点	0m	0.1m
市の最高点	1,400m	109.6m

#### 4. 調査結果・考察

##### 4. 1 回答者の属性

年齢の属性について、40歳未満を若年者、40歳～64歳を中高年者、65歳以上を高年齢者として分類した。西予市と寝屋川市の年齢の割合に大きな差はない（図3）。

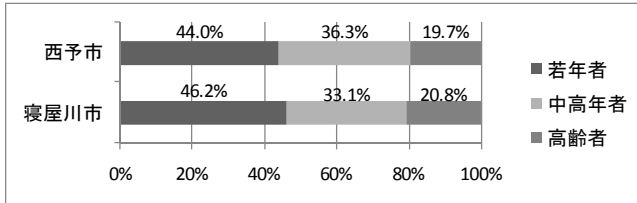


図3 回答者の年齢

##### 4. 2 墓地までの距離

現在、居住している場所から墓地までの距離について、年齢別に見ると、西予市では、どの世代についても半数以上が「地区内」にまたは、「町内」に墓があるという傾向にあった（図4）。寝屋川市については、高年齢世代に比べ若年者世代の方が墓の位置に近い傾向にあった（図5）。

2つの市を比較すると寝屋川市は、「地区内」・「町内」に墓があるのに対し、西予市では、「地区内」・「町内」に全体的に、少ない傾向にあった。

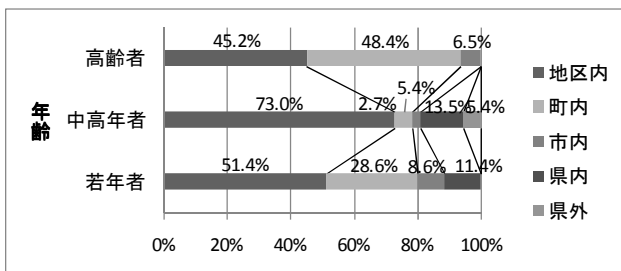


図4 墓地までの距離（西予市）

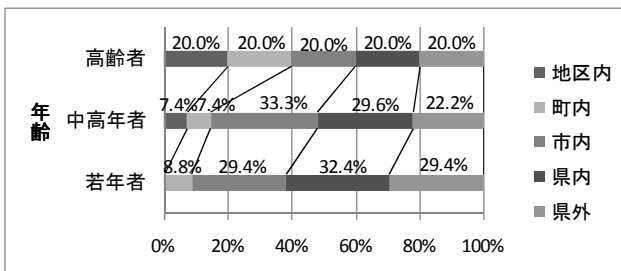


図5 墓地までの距離（寝屋川市）

##### 4. 3 墓参りの頻度

墓参りの頻度について見ると、西予市では、どの世代についても約60%以上が、「半年に1回」の頻度であった（図6）。若年者世代については、中高年者・高年齢世代に比べ、「年に1回」、または、「年に1回も行かない」人が多い。寝屋川市については、若年者世代・中高年者世代は、「半年に1回」、高年齢世代は、「月に1回」が多く高年齢世代がお参りの頻度が多い（図7）。2つの市を比較すると若年者世代については、2つの市ともに、他の世代に比べ、お参りの頻度は少なく、中高年者・高年齢世代は、寝屋川市の方が、お参りに頻度が多い傾向にあった。

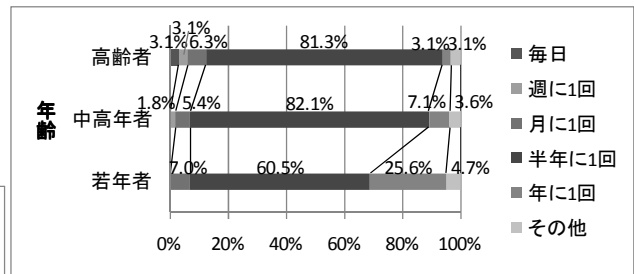


図6 墓参りの頻度（西予市）

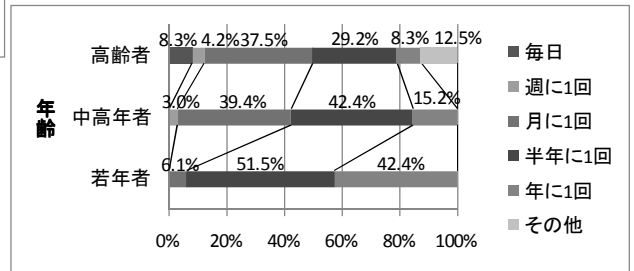


図7 墓参りの頻度（寝屋川市）

##### 4. 4 墓地に求める条件

墓地に求める条件について、4段階評価でそれぞれの必要度を、1を「重視しない」、2を「あまり重視しない」、3を「重視する」、4を「とても重視する」の4段階で調査を行った（図8,9,10）。

###### 4. 4. 1 各市別の墓地に求める条件

###### (1) 西予市

どの世代も「経営主体が自治体」、「無縁仏とならないように管理する」、「日当たり・水はけが良い」について評価が3以上と他の項目に比べ重視する傾向にあり、また、「使用料金が安い」、「交通の便が良い」も同様に3以上と評価が高く、世代が高くなるに連れ、重視する傾向にあった。「参墓者が長時間滞在できる」については、高年齢世代になるに連れ、重視しない傾向にある。

###### (2) 寝屋川市

どの世代も「宗派を問わない」、「無縁仏とならないように管理する」、「使用料金が安い」、「交通の便が良い」、「日当たり・水はけが良い」について、重視する傾向にあった。特に、「使用料金が安い」、「交通の便が良い」について、世代が上がるに連れ、重視する傾向にあり、若年者世代と高年齢者世代とでは、評価で1近くの差が出た。「親族知人などの墓が同じ墓地にある」については、世代が上がるに連れ、重視しない傾向にあり、評価に約1.5近くの差が出た。

###### 4. 4. 2 世代別の墓地に求める条件

###### (1) 若年者世代

どの項目についても評価は、ほぼ同じであり大きな差は見られなかった。

###### (2) 中高年者世代

若年者世代に比べ、少し開きはあったものの大きな差なく、2つの市とも同じ傾向にあった。また、「交通の便が良い」、「日当たり・水はけが良い」については、重視する傾向にあった。

### (3) 高齢者世代

他の世代に比べ評価に開きがあった。特に、「親族知人の墓が同じ墓地にある」については、寝屋川市が西予市に比べ評価が約1以上と低く、重視していない傾向にあった。これは、都市において世代が上がるに連れ、コミュニティが希薄化しているのではないかと考えられる。

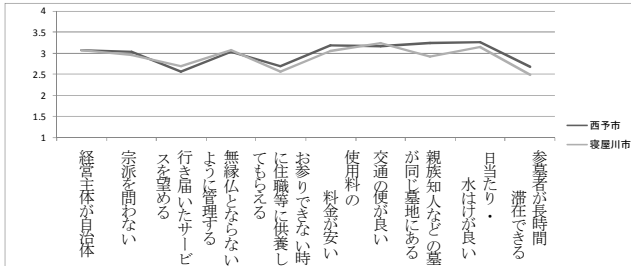


図8 墓地に求める条件 (若年者)

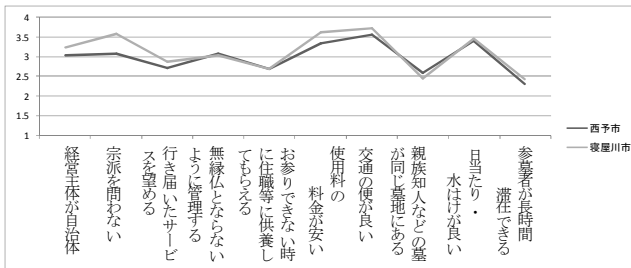


図9 墓地に求める条件 (中高年者)

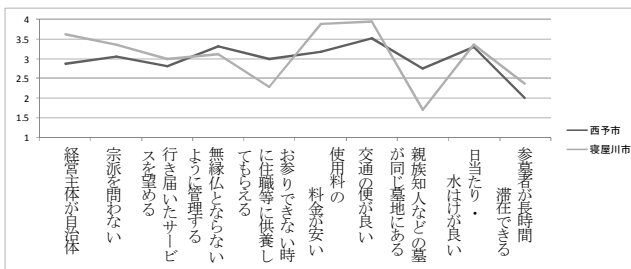


図10 墓地に求める条件 (高齢者)

## 4. 5 墓に求める条件

前項4. 4と同様に4段階で評価を行った(図11, 12, 13)。

### 4. 5. 1 各市別の墓地に求める条件

#### (1) 西予市

どの項目においても世代別に大きな差は見られなかった。中高年者世代・高齢者世代は、「立派な墓」について重視しない傾向にあり、「先祖代々の墓が良い」について若年者世代に比べ重視する傾向にあった。

#### (2) 寝屋川市

中高年者世代・高齢者世代について「墓にはできるだけお金をかけない」、「区画が広い」は、3以上と重視する傾向にあるが、若年者世代では、中高年者世代・高齢者世代に比べあまり重視していない傾向にあった。また、他の項目については、どの世代も重視していない傾向にあり、特に「墓石のデザイン」、「立派な墓」については、評価が2に近く、重視しない傾向にあった。

### 4. 5. 2 世代別の墓地に求める条件

#### (1) 若年者世代

全体的に大きな差が見られなかった。また、「先祖代々の墓が良い」以外は、西予市の方が重視する傾向にあった。

#### (2) 中高年者世代

「先祖代々の墓が良い」について西予市で寝屋川市に比べ、重視する傾向にあった。また、「墓にはできるだけお金をかけない」については、2つの市ともに評価は、3と重視する傾向にあり、「立派な墓」については、2つの市ともに評価が2以下と重視しない傾向にあった。

#### (3) 高齢者世代

他の世代に比べ、「立派な墓」、「区画が広い」、「合同式納骨堂で良い」以外について差が出た。「先祖代々の墓が良い」については、中高年者世代の世代と同様に西予市が重視する傾向にあった。さらに、「立派な墓」についても中高年者と同様に重視しない傾向にあった。また、2つの市ともに「墓にはできるだけお金をかけない」、「区画が広い」は、評価が3以上と重視する傾向にあった。

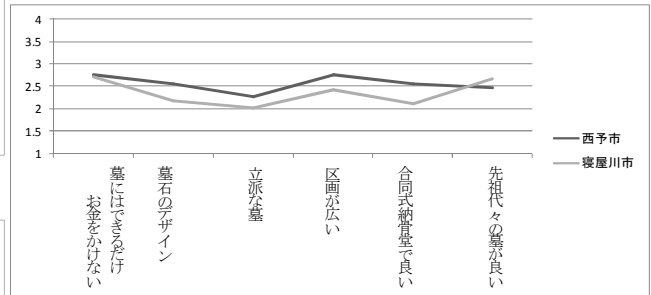


図11 墓に求める条件 (若年者)

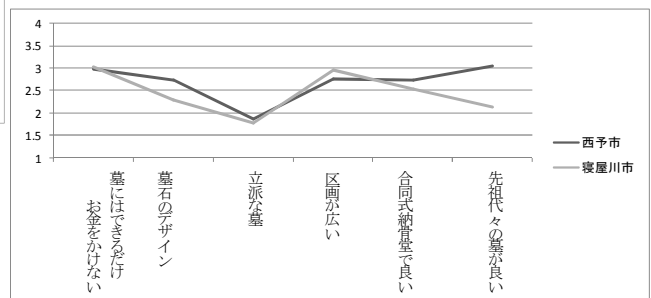


図12 墓に求める条件 (中高年者)

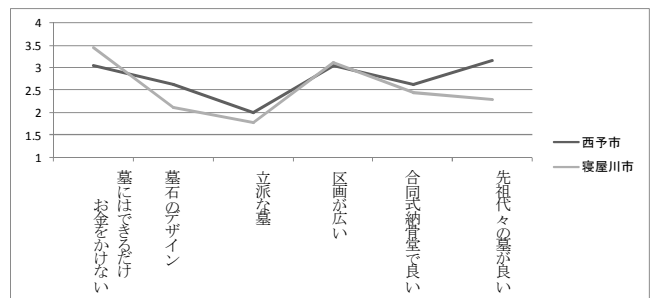


図13 墓に求める条件 (高齢者)

#### 4. 6 墓地施設に対する要求度

墓地施設に求める条件について、4段階評価でそれぞれの必要度を、1を「必要としない」、2を「あまり必要としない」、3を「必要とする」、4を「とても必要とする」の4段階で調査を行った(図14,15,16)。

##### 4. 6. 1 各市別の要求度

###### (1) 西予市

「駐輪場」、「水汲み場」については、評価が3以上と高く必要とする傾向にあった。「参拝道具置き場」、「バリアフリーされた通路」、「案内サイン」については、高齢者世代になるほど必要としない傾向にある。

###### (2) 寝屋川市

「駐車場」、「駐輪場」、「管理施設」、「トイレ」、「水汲み場」、「参拝道具置き場」、「バリアフリーされた通路」については、3以上と高く必要とする傾向にある。

###### (3) 2つの市を比較

「クロック」、「託児所」、「ペット預かり」、「ATM」については、評価が2以下と必要としない傾向にあった。また、高齢者世代の「クロック」、「託児所」以外の全てで、西予市に比べ寝屋川市が必要度高い傾向にあった。

##### 4. 6. 2 世代別の要求度

世代が上がるに連れ、全体的に評価の差が大きくなる傾向にあった。

###### (1) 若年者世代

「駐車場」について西予市では、必要度が高い傾向にあったが、寝屋川市では、必要度が低い傾向にあった。また、その他の項目では、評価の差が少なかった。

###### (2) 中高年者世代

「管理施設」、「案内サイン」について、西予市の必要度が低いのに対し、寝屋川市は、評価が3以上と高く必要としている傾向にあった。また、「駐車場」、「駐輪場」、「水汲み場」、「バリアフリーされた通路」については、2つの市ともに評価が3以上と必要度が高い傾向にあった。

###### (3) 高齢者世代

中高年者世代と同様に「管理施設」について、西予市の必要度が低いのに対し、寝屋川市は、必要度が高い傾向にあり、「駐車場」、「駐輪場」、「水汲み場」についても中高年者世代と同様に高い傾向にあった。世代が上がるに連れ、評価の差が大きくなる傾向にあった。

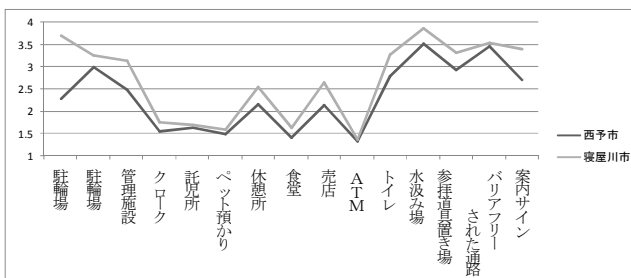


図14 墓地施設に対する要求度 (若年者)

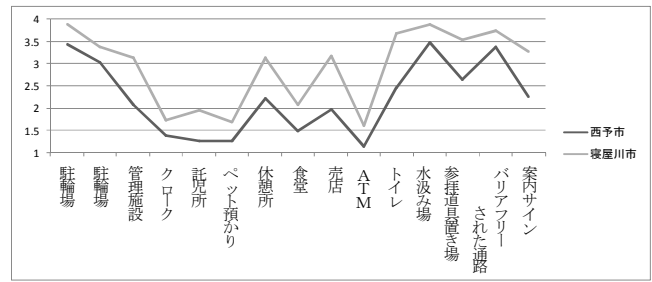


図15 墓地施設に対する要求度 (中高年者)

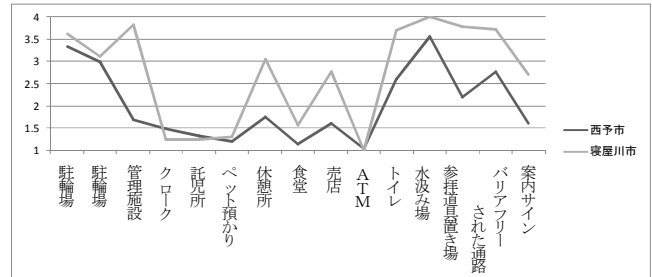


図16 墓地施設に対する要求度 (高齢者)

#### 5. まとめ

本研究の調査では、以下のことが明らかとなった。

- ①西予市の方が寝屋川市に比べ、墓地までの距離が近かったが、お参りの頻度としては、寝屋川市の中高年者・高齢者の世代が多く見られた。
- ②墓地に求める条件として中高年者・高齢者世代が、交通の便が良いことを重視している。また、環境面についても日当たり・水はけに重視していることがわかった。
- ③墓に求める条件として世代が上がるに連れ、区画が広い墓を望む傾向にある。先祖代々の墓に入ることにについては、若年者世代では、2つの市ともに差は見られなかったが、世代が上がるに連れ、差が大きく見られる。
- ④墓地施設に対する要求度については、預かり施設は全体的に必要としない傾向にあった。しかし、寝屋川市においては、参拝に必要な施設においては、必要としていることが明らかになった。
- ⑤西予市と寝屋川市において各項目に対し、若年者世代については、大きな差は見られなかったが、中高年者世代、高齢者世代と年齢が高くなるに連れ、墓地や墓に対する意識に差が見られることが明らかとなった。

#### 謝辞

本研究において、アンケート調査に協力いただき、回答を寄せていただいた愛媛県西予市と大阪府寝屋川市の地域の方々、及び、調査を担当した宇都宮聖人氏に心から感謝申し上げます。

#### 参考文献

- 1) 小林美津江 (2008)「少子高齢化時代の墓を考える」、立法と調査、参議院
- 2) 厚生労働省、平成 21 年人口動態統計の年間推計、日本語、厚生労働省 HP、2011 年 6 月 8 日